

長尾台コミュニティバス運行実験視察報告

目次

1. 運行概要
2. 出発式の様子
3. 運行初日(午前中)の様子
4. 長尾台(長尾6,7丁目)地区の特徴
 - 参考

1. 運行概要

運行概要

- 運行期間は11月10日(木)～12月9日(金)
(平日・土曜日・休日でダイヤを変えて運行)
- 運行時間は【平日】6時台～23時(片道86本/日、毎時2～3本)、【土休日】9:50～17時台(片道28本/日、毎時2本)、
- 路線は右図のとおり。平日朝夕は久地駅行きのみ毎時3本、日中・土日は久地駅行き・登戸駅行きが毎時各1本ずつ。
- 運賃は大人200円、小児100円。車内で現金払いのみ。「川崎市高齢者特別乗車証明書」などの提示で100円引き。
- 車椅子・ベビーカーのままの乗車扱いはしない。
- 一般乗合バス(道路運送法第21条2項による期間限定の一般乗合)。誰でも乗れる。
- 運行担当は高橋商事(麻生区コミュニティバス「山ゆり号」の運行会社)

費用負担

- 運行実験の車両、バス停などの設備費(仮のもの)は市が負担。
- 運行経費は1ヶ月で180万円ほどの見込み。
- 試行運行時の経費は、運賃収入を差し引いて不足が出た場合は市が負担。本格運行への移行に際しては、運行経費への補助・助成制度が無い場合、経費の全額を運賃等で賄える目処が立つことが条件になっており、1日あたり利用者が300名以上を目標にしている。

地域の特徴と都市型コミュニティバス

高齢化が進む都市部の住宅地で、最寄り駅・バス停までの間の急坂が課題。廃止代替ではなく、いわゆる「買物難民」問題の対策として、従来は路線バス等が運行していなかった地域への新設路線。途中一部交差点で狭い箇所があるため、乗客定員12名(乗務員・助手席を合わせて14名)のワゴン車を採用している。



写真: 運行実験初日の登戸駅(生田緑地口)バス停



図: 2011年9月30日に自治会全戸に配布された資料より

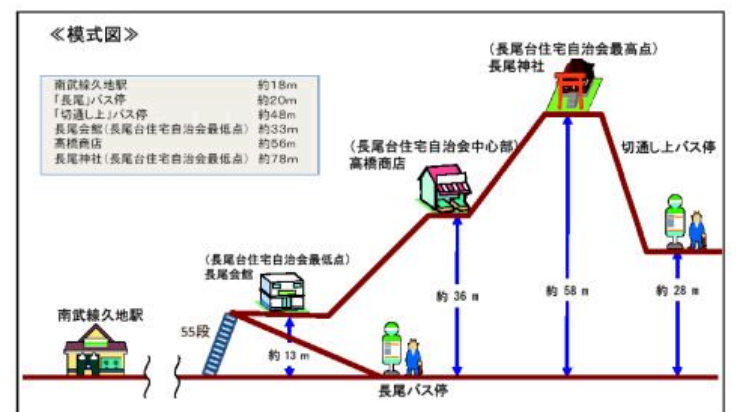


図: 平成23年3月15日開催 川崎市地域公共交通会議 資料5 2より

日中の買い物や通院などばかりではなく、通勤通学も対象にしている。平日の運行時間は朝6:10（長尾台地区発）から23:00（久地駅発）まで。

沿線の高齢化率（後述）は、戸建ての多い長尾6丁目が高く28.2%、集合住宅も多い長尾7丁目では14.4%、両地区平均は19.1%。全市平均は16.3%なので、比較的高齢化している地域と言えるが、通勤している住民もいれば、事業所もある。

こうした地域での事例には国分寺市「ぶんバス」東元町ルート（一周約2.5km）など利用者の多い所もある。幅広い住民の支持を得ることができれば、継続運行につながるのではと期待される。

2. 出発式の様子

日時

2011年11月10日(木) 9:25頃～

初日も朝6時台より運行しているが、関係者が集まる都合から9時台に実施。

場所

妙楽寺（通称「あじさい寺」）敷地内（川崎市多摩区長尾393）

出席者・来賓

協議会関係者、地域住民、妙楽寺 副住職、労働安全衛生総合研究所 理事、長尾小学校 教頭、長尾町会 会長、川崎市まちづくり局交通政策室、多摩区役所、高橋商事（運行を担当するバス会社）など約50名



写真：出発式で挨拶する高橋商事・高橋社長と協議会・児井会長

取材他

神奈川新聞、タウンニュース、K cube、SLTc

事業主体

長尾台コミュニティ交通導入推進協議会（平成20年9月設立、児井正臣会長）



写真：妙楽寺「あじさい寺」で行われた出発式にて。右から地域住民、協議会・自治会関係者、高橋商事の関係者。

3. 運行初日（11月10日）午前中の様子

通勤需要の取り込みに期待

コミュニティバスは日中の高齢者を対象にしている事例が多いため、朝夜の通勤通学時間帯に設定される事例は少ないが、長尾台地区では通勤需要も視野に入れ、早朝から夜まで運行している。

地域内には研究所や小学校があり、その職員が100名ほど通勤しており、その需要も調査するとの事。初日から研究所へ向かう乗客の利用があった（右写真）。今回は1ヶ月間の運行実験なので、マイカー利用者の移行は期待しづらいだろうが、通勤利用者は定期的な利用が見込めるし、エコ通勤にもつながると期待したい。

長尾台地区では、駅まで歩くには遠い距離（道なりに1.5～2km）と、自転車利用を阻む高低差があるため、通勤では駅までマイカー送迎が多いという話が聞かれた。そうした状況があるならば、路線バスへの転換により地域環境の改善、生活の質向上も期待されよう。

この他、「あじさい寺」として知られる妙楽寺では毎年「長尾の里あじさいまつり」が開催され賑わう。また、近隣の長尾神社、五所塚第1公園、等覚院「つつじ寺」、東高根森林公園、川崎市緑化センターなどとともに「長尾の里めぐり」散策コースが設定されている。

告知状況

9月30日にチラシを自治会全戸配布、バス停付近を中心にA3判ポスター貼り出し、地域内の事業所へ告知などしているとのこと。

また、沿線の商店や金融機関なども回ってポスター掲示を依頼しており、協力的な所では店前などに掲示されている。

そうした効果があっただけでなく、運行初日より毎便数名程度の利用者がいた様子。今後、目標の1日300人（1便換算4.3人）に向けて乗客増に向けた一層の取り組みが期待される。

運行関連

車両は運行実験のため一般貸切用のコミュニーター（送迎車）が使われており、専用塗装等されておらず目立たないのは残念だが、運行を担当する高橋商事では、車内に設置したモニタ（麻生区高石で運用されているものと同じ仕組み）による案内など工夫されている。

運行時刻はほぼパターンダイヤになっているが、登戸駅（生田緑地口）では既存路線バスのバス停を間借りしていることから、他のバスと競合しないよう一部時間をずらして設定されている。



協議会の取り組み

初日より児井会長が各地を回り、乗客に案内しながら、改善点などを調査されていた。1ヶ月という短い期間だが、この期間に改善点を洗い出し、出来る事はすぐに改善していくとの事。

また、来週より車内で乗客向けにアンケートを実施するが、協議会の会員12名では人手が足りないので住民に手伝いをお願いした所、34名の応募があったという。地域の関心の高さをうかがえる。皆で支える機運が高まればと期待したい。

主な利用目的は駅と買い物

長尾台地区には、中央に日用雑貨を扱う高橋商店がある外に店は無く、最寄りのコンビニエンスストアは1km以上離れており、高低差もある。

久地駅付近にはスーパーや商店、金融機関があり、登戸駅付近には郵便局、スーパーや商店、金融機関がある。開業医や病院も駅近くにある。また、登戸駅行きは途中の「長尾橋」で乗降（登戸駅行きは降車のみ、長尾台方面行きは乗車のみ）できるが、これは近くのスーパーに行きたいという要望があったためという。

通勤通学を考えると久地駅まで出て南武線に乗る方が早く、日中は様々な用件に応じて2駅行きが交互に運行されるという仕組みになっている。

隣接地域の需要取り込み

隣接するが区境をまたぐ宮前区五所塚1丁目、神木本町1丁目でもコミュニティバス路線の近くでは利用が期待できそうだが、需要はまだ見えていない。また、長尾7丁目のうち路線から少し離れる地域（長尾小学校周辺）の需要も課題か。

従来の主な交通手段はマイカーと電動アシスト自転車

出発式の挨拶で長尾町会長より、電動アシスト自転車が大活躍しているという話があったが、中心部は急な坂が1kmほど続き、歩く人よりクルマの方が多い状況で、マイカー利用が多いものと感じられる。

マイカー依存から脱却し持続可能な地域交通の構築を目指す

長尾台地区では、コミュニティバス導入に際し、地域住民だけでなく全市民が納得できる理由を明確にする、既存の路線バス網に悪影響を与えないことを明確にする、技術面と経済面で持続可能なサービスを作る、の3点に留意して取り組まれており（川崎の交通とまちづくりを考える会編『川崎市のコミュニティバス実現に向けて』2011年3月）、公共交通手段の充実によりマイカー依存を減らすことなども視野に、入念な調査を行いながら、平成25年度の本格運行を目標に取り組まれるとのこと。



写真：研究所前。遠くに見える町並みとの高低差は50m以上

4. 参考：長尾台（長尾6,7丁目）地区の特徴

公共交通

JR南武線 久地駅～宿河原駅間（両駅より2km圏内）

路線バス（北側）は、市バス 溝06系統（向ヶ丘遊園駅～溝口駅～井田営業所、日中毎時2本）・東急バス 向02系統（向ヶ丘遊園駅～二子玉川駅、平日70分間隔）、最寄りバス停は「長尾」（高低差13～58m）。

路線バス（南側）は、市バス 登05・06系統（登戸駅方面～向丘出張所方面、日中毎時3本）・東急バス 向01系統（向ヶ丘遊園駅～梶が谷駅、日中毎時2～3本）、最寄りバス停は「五所塚」（高低差28m）。

人口（2011年9月末日時点）

3314人（男1721、女1593）、高齢化率19.1%

【長尾6丁目】1132人、高齢化率28.2%。

【長尾7丁目】2182人、高齢化率14.4%。

高齢化率は全市平均(16.8%)より若干高い。

（平成23年9月末現在 川崎市町丁別年齢別人口より）

標高・駅までの距離

「長尾」バス停付近が最も低く20mほど、最も高い長尾神社前が78mで尾根になっている。尾根を越えて「五所塚」バス停付近が42mほど（参考：久地駅付近は18mほど）

妙楽寺（あじさい寺、標高63mほど）から長尾バス停までは道なりに800mほど、久地駅までは同2kmほど

（参考）長尾台住宅自治会

昭和40年代に造成され、戸建て中心に約500世帯の住宅地。

参考

関連情報リンク

- 多摩区長尾台地区におけるコミュニティバスの運行実験について
- 平成23年度 多摩区長尾台地区の運行実験
- 川崎市地域公共交通会議

報告書

- 2011年03月：『川崎市のコミュニティバス実現に向けて』（まちづくり・地域交通調査支援事業 報告書）（K cube発行、本会調査・編集協力）

関連情報

長尾台コミュニティバス運行実験の結果については、12月に開催予定の第2回コミュニティバス連絡会（川崎の交通とまちづくりを考える会(K cube)主催、持続可能な地域交通を考える会(SLTc)協力、非公開）でご報告いただく予定。参加希望の会員は予め事務局へご一報を。

実際にバスを運行させて、皆様にご利用いただくものです。
本格運行の実現に向け1人でも多くの方のご利用をお願いいたします。

運行実験とは、今回の運行計画が住民の皆様のほかに利用する利用者によって本車に役に立つものかどうか、運行する上で問題がないかな等を調べるためのものです。
運行ルートやバス停の位置、運行時刻やダイヤ、車両の大きさなどが不安なものかどうか、また走行中で支障がないか、騒音はどうかなどを調べます。

皆様には通勤・通学、所用、お買物、送迎などにご利用いただき、そのご感想などを聞かせたいと思います。その結果で次のステップの試行運行に進んで良いかどうかを判断するとともに、進む場合には何を改善したら良いかなを検討します。

長尾台コミュニティバスは高齢者の足となるだけでなく、通勤・通学利用も多くの皆様にご利用いただけることを目指しています。

【長尾台コミュニティバスの特徴】

- 平日は早朝6時から深夜22時まで運行します。
- 朝、夕、夜の間隔は久地駅に20分間隔という頻度で運行します。
- 昼間の時間帯は登戸駅、久地駅に1時間に各1本、計2本運行します。
- 土休日は昼間時間帯に運行します。

「お買物や送迎、また通勤・通学にもご利用ください！」

【車両イメージ(乗客定員12人)】

住民向けに配布された案内資料



© 2011 ISAKA Yoji / Sustainable Local Transit committee, Kawasaki Japan.
Some rights reserved: Creative Commons Attribution Share Alike 2.1 Japan.